

私大協会

# 事務局長相当者研修会開く

## 230大学325名が熱心に研修

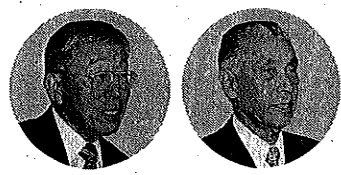
日本私立大学協会(大沼 淳会長)は、去る十月十八日から二十日まで、静岡県浜松市のホテルにおいて、平成十八年度(通算第五八回)「事務局長相当者研修会」を開催した。同研修会は、大学運営の要となる事務局長の役割の重要性に鑑み、同協会の大学事務研究委員会(担当理事・香川達雄)と東洋大学理事長・委員長(丸山徹)と武蔵野音楽大学理事・総務部長(三浦 浩)が準備を進めてきたもので、「大学の社会的責任とマネジメント」をテーマに加盟三七二大学から三〇大学三二五名の事務局長等が参加して行われた。

# 大学「の社会的責任とマネジメント」



開会の挨拶に立つ小出中部支部長

競争的環境下において、ムへの対応など、私立大学をめぐるとして、社会環境が大きく変化しつつある中、私立大学は、今までの以上に教育・規制緩和や評価システム



香川担当理事



小出支部長

研究を通じて、社会の多様な要請に応え、貢献していくことが求められている。このたびの研修会の内容は、「私立大学の社会的責任(USR)」を一つの柱にして、私立大学が社会的責任を果たすために必要な方策並びに管理運営上の諸問題をどのように推進するか具体的に検討するもの。

USRの基本的な概念、経営破綻のリスクへの対応、コンプライアンス・マネジメント、震災等における私立大学の役割など幅広いテーマの、講演が行われた。まず、講演が行われた。小出支部長より挨拶があり、丸山委員長より挨拶があり、次いで同協会の小出秀文事務局長より私学振興上の諸課題について概説があった。

続いて、USR研究会の幹事でもある渡邊 徹(日本大学医学部医学・臨床情報学)が、USRの考え方を、ブランド戦略と結びつけて講演した。また、「ブランド戦略」として、大学の「信頼度」を上げる戦略である、と強調した。

続いて、文部科学省の研究費不正使用に関する検討委員会の委員も務める、大久保利孝(新日本監査法人)が、会計部・学校法人経営管理支援センター(香川)・クライアントサービス本部長(代理)・CSR推進部長(代理)・コンプライアンスに関する講演があった。同氏は、日本ではコンプライアンス(法令順守)という語が浸透しているが、本来の意味では、「組織が社会的要請に鋭敏に反応していくこと」であり、単に法律を守っているだけではいけません。また、最近、企業でも取り組みが進む「内部統制」については、研究費の不正使用の対応にも用いられるとして、経営者は従業員に「法律を守らせる」場合に、法律をどのようにして守らせるかのプロセスを「見える(可視化)」ようにしておくことが大事だ、と考え方を述べた。また、現場で情報収集をしつつ、組織風土・意思決定メカニズムの実態に即した体制構築が必要である、と締めくくった。

次に、阪神・淡路大震災の体験をもとにした対応について、実際に被災した高元善(私神学院大学)事務局長が、事務局長より講演があった。

続いて、競争的環境への対応、規制緩和への対応などから、大学が自立的かつ機動的な経営、説明責任を果たすことと評価システムへの対応を行わなければならない、そのためにUSRの考え方が出てきた、と述べた。そして、「教育・研究を行うことが、私立大学の社会的責任」などと言った人もいたが、財政基盤をしっかりとらせて組織を維持していくことも社会的責任である、と、大学の経営意識の重要性を指摘した。また、USR研究会の実態調査の結果を用いながら、大学のガバナンス・リスク・マネジメント、内部統制、情報システム、USRを行っていくうえで必要な項目について解説した。

二日目は、「競争的環境と私学経営の課題」と題して、日本私立学校振興・共済事業団の西井泰彦(私学経営相談センター)が講演した。同氏は「事業団として、経営困難な学校法人の再生支援のスキームを考えていかなければならぬ」と述べ、入学志願動向、入学定員充足率、財務状況の多角的なデータを解説しながら、学校法人がどのように行動していくべきかを示唆した。また、収容定員が不十分でも黒字の大学は存在する、そのような大学の特徴は、学生と教員の比率がよいことだ、と述べた。学生が減れば、教員のリストラも選択肢の一つだと語った。

同日は、一九九五から、教職員が先頭になつて対応することの重要性を述べた。最後に、大地震などとは予測できないものではない、仕方なことを想定して、「事前に何をしておけばよいか、何をしない、自らの経験を交えな



磯田私学部長



西井センター長



325名の事務局長等が熱心に研修

ければならないか」などについて話し合っておくだけでも役に立つ」と述べた。続いて、同委員会副委員長長の池原喜忠(名城大学)が、過去三年間における同研修会のテーマ(大学アドミニストレーター)についての講演などを取りまとめた「競争的環境下での大学職員の役割」の発行について報告をした。アドミニストレーターは、経営戦略型事務局を構築していくにあたり、中心となる行政官職員のことで、私大を取り巻く情勢が大きく変化している環境において、この養成が急務とされている。三日目は、高等教育をめぐるとして、文部科学省高等教育局私学部長に就任したばかりの磯田文雄氏から講演があった。